

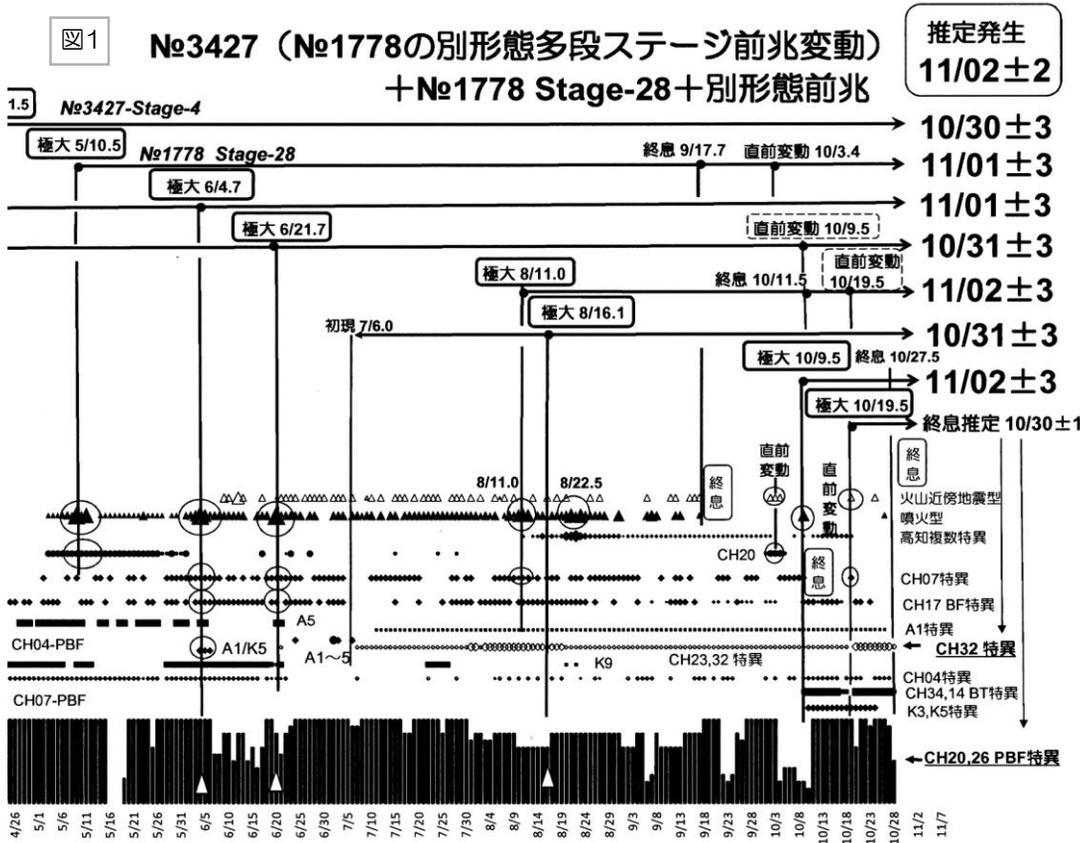
八ヶ岳南麓天文台 電離層モニター観測所 代表：串田嘉男

Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

※首都圏直下・南海トラフ等大地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は29年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」には非ご参加下さい。本年1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様へ配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

※8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。

**No1778 続報 11変動のうち9 静穏化 残る2 変動も微弱 10/30±1迄継続の可能性**  
**現在の認識が正しい場合、次 Stage に移行しなければ 11/2±2 に発生の可能性有**



No1778長期継続変動は左図1のとおり、11の変動のうち、9変動が静穏化認識です。

現在、図1の右端に矢印付太字変動が極めて微弱に継続しています。

約16年4ヶ月継続し、最大30観測装置に変動が出現しましたが、現在は2つのみとなりました。10/19.5

は直前変動認識ですが、極大の可能性があり、正しければ、現在継続中のCH32特異とCH20、26のPBF特異は10/30±1まで継続して静穏化する可能性が示唆されます。

現状、11月2日±2 発生の可能性が考えやすい状況です。

推定される時期に次ステージに移行することがなければ、対応地震発生の可能性が考えやすい状況です。今月末の状況を見て続報予定ですが、ホームページ担当の方が11/1~11/4まではアップロード困難とのことなので、10/31時点で確認ができた場合は、31日夜までに続報が書けましたら更新させていただきます。

※過去例を再調査した結果、火山近傍地震型変動で発生した地震は気象庁の常時監視火山以外でも発生していました。従って図2太線領域内のあまり活動的でない火山近傍領域の可能性も否定できません。また熊本地震は火山近傍型ではなく、No1778と同じ火山噴火型変動とBF変動で極大を形成していました。お詫びして訂正させていただきます。

